

# 令和2年度 教育課程説明会 「技術・家庭科（家庭分野）」部会（中学校）

## （家庭分野）

- 1 学習指導要領 家庭分野の改訂のポイント  
平成20年改訂の学習指導要領における家庭科の課題

- 家族の一員として協力することへの関心が低いこと
- 家族と地域の人々に関わること
- 家庭での実践や社会に参画すること

今後育成が求められる力



- 社会の急激な変化に主体的に対応すること
- 生活の中から問題を見いだして、課題を設定し、それを解決する力
- よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度

### 家庭分野の改訂のポイント

- 児童・生徒の発達を踏まえ、小・中・高等学校の各内容の接続が見えるように、小・中学校においては「生活の営みに係る見方・考え方」を踏まえて、内容を「A家族・家庭生活」「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」に整理
- 空間軸【家庭、地域、社会】と時間軸【これまでの生活、現在の生活、これからの生活、生涯を見通した生活】という二つの視点から学校段階に応じた学習対象を明確化
- 資質・能力を育成する学習過程を踏まえ、各項目を原則として「知識・技能」の習得と、「思考力・判断力・表現力等」の育成に関する二つの指導事項ア、イで構成
- 生活の中から問題を見だし、課題を設定し、解決方法を検討し、計画、実践、評価・改善するという一連の学習過程を重視し、この過程を踏まえて基礎的な知識・技能の習得に係る内容や、それらを

- 2 学習評価について（『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料）を参考に）

（1）「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の手順

- ① 「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認

学習指導要領に示す「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認し、 観点ごとのポイントを踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する (★P. 32～36 参照)			
	【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
観点ごとのポイント	指導事項アにおいて、その文末を「～を(～について)理解している」「～を(～について)理解しているとともに、適切にできる」として、評価規準を作成。  ※「A家族・家庭生活」の(1)については、その文末を「～に気付いている」として、評価規準を作成	学習過程に沿って「課題を解決する力」が身についているかを評価する。具体的には、指導事項イについて、評価の観点及びその趣旨に基づきその文末を「～について、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている」として評価規準を作成。	指導事項ア・イと、教科の目標、評価の観点及びその趣旨を踏まえて作成。具体的には、①粘り強さ、②自らの学習の調整、③実践しようとする態度を含めることを基本とし、「～について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている」として、評価規準を作成。
評価方法	・学習カード ・ペーパーテスト ・行動観察  等	・計画表 ・実践記録表 ・行動観察 ・実践レポート ・学習カード ・自己評価・相互評価  等	・計画表 ・実践記録表 ・行動観察 ・実践レポート ・ポートフォリオ ・自己評価・相互評価  等

【参考】内容のまとめりごとの評価規準（例）

※『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』巻末資料 P. 129～133

「A 家族・家庭生活」

(1) 「自分の成長と家族・家庭生活」		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解しているとともに、家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。		
(2) 「幼児の生活と家族」		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の発達と生活の特徴が分かり、子供が育つ環境としての家族の役割について理解している。</li> <li>・ 幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解している。</li> </ul>	幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、幼児の生活と家族について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

(2) 「題材の評価規準」について (P. 82～)

家庭分野では、学習指導要領の各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて組織して題材を構成します。題材の設定に当たっては、各項目及び各項目に示す指導事項との関連を見極め、系統的及び総合的に学習が展開されるよう配慮します。題材を検討したのち、題材の目標を設定し、評価規準を作成します。題材の評価規準を設定する際には、内容のまとめりごとの評価規準から題材において指導する項目及び指導事項に関する項目を抜き出し、評価の観点ごとに整理・統合、具体化するなどして作成します。

(3) 題材の評価規準を学習活動に即して具体化

解説における記述等を参考に学習活動に即して、具体的な評価規準を設定します。これらを設定することにより、目標に照らして生徒の学習状況を把握することができます。

3 事例概要

※『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』P. 88～121

題材名	キーワード
	主に紹介されている評価の観点
「健康・快適で持続可能な衣生活」(第2学年)	指導と評価の計画から評価の総括まで
「自立した消費者となるために」(第3学年)	「知識・技能」の評価
「家族・家庭や地域との関わり」(第1学年)	「思考・判断・表現」の評価
「我が家の防災対策」(第3学年)	「思考・判断・表現」 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

【参考資料】

《文部科学省 国立教育政策研究所》

- ・ 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 家庭編
- ・ 『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』

《神奈川県教育委員会》

- ・ 「教育課程編成の指針」
- ・ 「カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価」